



「～原点回帰！分娩間隔の短縮を目指して～」

令和6年もあっという間にひと月が過ぎましたね。今年は、比較的雪も少なく、過ごしやすいかと思いますが、まだまだ寒さや大雪の恐れもあり、油断大敵です。牛も人も事故なく過ごしましょう。さて、繁殖農家にとって永遠のテーマ“分娩間隔の短縮”について、今回はお話しします。市場価格の低迷、資材高の今だからこそ、改めて、向き合ってみましょう。

分娩間隔を短縮して得られる経済効果は？

各JAの平均分娩間隔は
JA岩手ふるさと412日、JA江刺409日
JAいわて平泉411日、JAおおふなと445日



県目標**380日**より
29～65日長い！

1年間の子牛生産性（繁殖牛20頭規模の場合）で比較してみましょう！

分娩間隔**380日**なら年間 $0.96 \text{ 回}^*1 \times 20 \text{ 頭} = 19.2 \text{ 頭}$

分娩間隔**412日**なら年間 $0.89 \text{ 回}^*1 \times 20 \text{ 頭} = 17.8 \text{ 頭}$

年**1.4頭**の差

市場平均価格496千円^{*2} × 1.4頭 = **694千円**の損失

*1 繁殖牛1頭あたりの分娩回数、*2 全農岩手県本部 令和5年和牛子牛市場成績より 県南家畜市場平均（税抜）

分娩間隔を
1日短縮するだけで
こんなに経済効果
があるんだね！

繁殖牛の分娩間隔が1日延長した場合の損失は、
1頭1日当たり約**1,200円**、そのほか、
飼料代が1頭1日当たり約**800円**。
つまり…**分娩間隔を1日短縮すれば1頭当たり
約2,000円の経済効果**があるんです！

分娩間隔を短縮するためのポイントは3つ！

- ①分娩後の母牛の体調回復
- ②分娩後の授精
- ③授精後の妊娠判定

これらを**速やか**に行うことが**重要**です！そこで今回は、③の対策に
オススメの**早期妊娠判定技術「PAG検査」**をご紹介します！

PAGとは、**妊娠時のみ胎盤から分泌される物質**のことで、**乳汁中のPAG濃度**を検査することで、**妊娠の有無が判定**できます。方法は以下のとおり！



乳汁採取



検査機関へ
検体送付



結果報告
(送付から3日後)

妊娠⊕の場合、
授精後60日目以降に
獣医師による妊娠確定診断

妊娠⊖の場合、
早期治療・再授精

⊖を早く見つけて
対処することが
重要なんだね！

PAG検査と獣医師の妊娠鑑定の比較は、次ページの表1で説明します！

表1 PAG検査と獣医師による妊娠鑑定の比較

	PAG検査	獣医師による妊娠鑑定
妊娠判定が実施できる日数	授精後28日目以降	授精後60日目以降
判定に要する日数	3日（乳汁サンプル送付後）	0日（その場で判定）
獣医師の介在	不要	必要
1回あたりの費用	最大4,000円	約3,000円+交通費等
その他事項	分娩後60日目以降かつ 離乳していないことが条件	-



PAG検査を活用して、分娩間隔を32日短縮した事例があります。
この場合の、PAG検査の費用対効果を計算してみると…

費用

PAG : 7,000円 (PAG+獣医)
獣医 : 3,000円 (獣医のみ)

増額 **4,000円**

効果

分娩間隔32日短縮
32日×2,000円 = **64,000円**

増額 **64,000円**

費用対効果は60,000円!



PAG検査を活用して、分娩間隔の短縮を目指しましょう!

PAG検査についての詳細は、普及センターにお問い合わせください!

《子牛を大きく育てよう!》~岩手県肉用牛飼養管理マニュアルから~

マニュアルの
ダウンロード
はこちら→



○ 育成牛の飼養環境について

育成期間の管理は、その後の産肉性や繁殖成績に強く影響します。環境を整えて、育成牛の発育向上と疾病予防に努めましょう。

1 採食・飲水量の確保

- 育成牛の体格に合わせ、飼槽の高さを調整し、育成牛が十分採食できるようにしましょう。
- 育成期には飲水量も増加します。清潔な水をいつでも、十分な量を飲めるようにしましょう。冬場はお湯にすると良いです。



残飼やゴミは取り除く



2 衛生対策

- 病原体を牛舎内に持ち込まないよう、牛舎入口に踏込消毒槽等を設置しましょう。
- 定期的に牛舎消毒を実施し、感染症を予防してください。
- 天井や梁に積もったホコリの中に、細菌や菌体毒素が残留していることがあります。天井部分も忘れずに掃除しましょう。



3 換気と保温

- 冬こそ換気が重要!! 換気により、アンモニアガスによる呼吸器病を防ぐことができます。
- 牛床を乾燥状態で維持!! 敷料は小まめに入れ替えることが重要です。
- 敷料は厚く敷く!! 敷料が厚いと、空気層が多くなり、保温効果やクッション性が高まります。寝る部分だけを厚く敷く農家もいます。



お問い合わせ >>>

奥州農業改良普及センター 0197-35-8451

一関農業改良普及センター 0191-52-4961